

FileMaker® 8

インスタント Web 公開ガイド



© 2004-2005 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.
5201 Patrick Henry Drive
Santa Clara, California 95054

FileMaker 及びファイルメーカーは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ScriptMaker 及びファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

また、製品及びサンプルファイル等に登場する会社名、氏名、住所などのデータは全て架空のもので、実在する企業、人物とは一切関係ありません。

スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

目次

第1章	
Web 上での FileMaker Pro データベースの公開について	5
このガイドについて	6
Web 上でデータベースを公開する場合の条件	6
インターネットまたはイントラネットへの接続	6
FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて	7
FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホストについて	7
Web 公開における改善点	7
旧バージョンの FileMaker Pro のファイルの公開	8
FileMaker Pro 7 のファイルの公開	8
ファイルメーカー Pro 6 以前のファイルの公開	8
第2章	
Web 上へのデータベースの公開	9
インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有	9
インスタント Web の言語の選択	10
Web 公開時のポート番号の指定	11
Web 接続の最大数の確認	12
指定した IP アドレス以外のアクセスの制限	12
非アクティブな Web アカウントの接続解除	12
HTML ページからデータベースへのリンク	13
カスタムホームページの使用	13
静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開	14
静的なデータの一般的な公開手順	14
第3章	
Web 上での FileMaker データベースの操作	15
Web ブラウザの必要条件	15
Web から FileMaker データベースへのアクセス	16
ファイルへのログイン	17
インスタント Web 公開でのデータの操作	18
ブラウズモードでのレコードの表示と変更	18
レコードの検索	19
データベースからのログアウトと Web セッションの終了	20
ステータスエリアが非表示の状態でのデータベースの表示	20
FileMaker Pro とインスタント Web 公開の違い	21
インスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスする利点	21
FileMaker Pro を使用してデータベースにアクセスする利点	21

第 4 章	
インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン	23
インスタント Web 公開用のレイアウトのデザインのヒント	23
インスタント Web 公開でのレイアウトのレンダリングのヒント	23
リスト形式および表形式のデザイン上の考慮事項	24
Web ブラウザでのデータの操作のヒント	24
データベースのデザインに関する一般的な考慮事項	25
Web 上でのグラフィック、サウンド、およびムービーの操作	25
初期レイアウトと表示形式の設定	26
ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ	26
Web ユーザに対するソート順の指定	27
スクリプトとインスタント Web 公開	27
スクリプトステップのヒントと考慮事項	27
データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成	29
FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要	30
ソリューションのドキュメントの作成	30
第 5 章	
サイトのテスト、監視、および保護	31
ネットワークに接続した状態でのデータベースのテスト	31
ネットワークに接続しない状態でのデータベースのテスト	31
ログファイルでの Web アクティビティの監視	31
データの保護	32
索引	35

第 1 章

Web 上での FileMaker Pro データベースの公開について

FileMaker® Pro では、さまざまな方法で Web 上でデータベースを表示することができます。これによって、次のようにデータを利用することができます。

- 世界中のどこからでも、互換性のある Web ブラウザを使用して多くのユーザがデータを利用する（ただし、ファイルへのアクセスは制限することができます）。
- 出張先やリモートでの作業中など、さまざまな場所からデータにアクセスする。

FileMaker Pro を使用してデータを公開するには、次の 3 つの方法があります。

インスタント Web 公開: インスタント Web 公開を使うと、データベースをすばやく簡単に Web 上で公開することができます。互換性のある Web ブラウザソフトウェアを所有し、インターネットまたはイントラネットにアクセス可能なユーザは、データベースファイルを変更したり、他のソフトウェアをインストールしなくても、Web 上で公開されたデータベースの表示、編集、ソート、および検索を行うことができます。ただし、その場合にはこれらの操作を行うためのアクセス権が必要となります。他のソフトウェアを使用すると、ファイアウォールを設定してネットワークを保護するなど、他のタスクを実行することができます。

静的な公開: データがあまり変更されない場合、または稼働中のデータベースにユーザが接続しないようにする場合には、静的な公開方法を使用します。静的な公開方法では、FileMaker Pro のデータをエクスポートして Web ページを作成します。Web ページは、HTML を使用してさらにカスタマイズすることができます。データベースの内容を変更しても、Web ページのデータは変更されません。ユーザは、Web サイトに接続してもデータベースには直接接続しません。（インスタント Web 公開では、Web ブラウザが FileMaker Pro に情報更新の要求を行うたびに、Web ブラウザのウィンドウに表示されているデータが更新されます）。詳細については、14 ページの「静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開」を参照してください。

カスタム Web 公開: 公開するデータベースの表示方法と機能をさらに拡張する場合は、FileMaker Server Advanced ソフトウェアに含まれるカスタム Web 公開技術を利用してカスタム Web を作成してください。XML および XSLT スタイルシートを使用すると、以下が可能になります。

- データベースを他の Web サイトに統合する
- ユーザによるデータの操作方法を決定する
- Web ブラウザでのデータの表示方法を制御する

重要 Web 上でデータを公開する場合は、セキュリティがさらに重要になります。『FileMaker セキュリティガイド』のセキュリティガイドラインを参照してください。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ



FileMaker Pro レイアウトに表示されるデータ

このガイドについて

このガイドでは、FileMaker Pro におけるインスタント Web 公開および静的な Web 公開方法の機能について説明します。このガイドで説明する内容は、次のとおりです。

- Web 上でデータベースを公開するための必要条件
- FileMaker インスタント Web 公開を使用してデータベースを公開する方法
- データベースにアクセスするための Web ユーザの必要条件
- インターネットまたはイントラネット上のデータベースにアクセスして操作する方法

FileMaker Pro のドキュメントでは、Web ブラウザを使用してインターネットまたはイントラネット上でアクセスできるデータベースのことを指す場合に Web 上での公開という言葉を使用します。

このガイドでは、FileMaker Pro Advanced の特定の機能を説明する場合以外は、「FileMaker Pro」を、FileMakerPro と FileMaker Pro Advanced の両方を指すものとして使用しています。

重要 FileMaker に関するドキュメントについては、www.filemaker.co.jp を参照してください。

Web 上でデータベースを公開する場合の条件

インスタント Web 公開を使用してデータベースを公開するには、以下の条件が必要です。

- FileMaker Pro または FileMaker Server Advanced を実行している Windows ベースまたは Mac OS ベースのコンピュータで、インスタント Web 公開が有効な環境

重要 FileMaker Server または FileMaker Server Advanced もインストールされているコンピュータでは、FileMaker Pro のインスタント Web 公開を有効にすることはできません。

注意 インスタント Web 公開は、基本的な FileMaker Server 製品ではサポートされていません。

- インターネットまたはイントラネットへのアクセス
- 1 つ以上の FileMaker Pro データベース
- FileMaker Pro Web 公開コンポーネント ([すべて] を選択してインストールすると自動的にインストールされます)
- データベース アクセスをテストするための Web ブラウザ

Windows XP または Windows 2000 の場合	Mac OS X の場合
Internet Explorer 6.0	Safari 1.1 (Mac OS X 10.2)、Safari 1.2、1.3 (Mac OS X 10.3)
Firefox 1.0	Safari 2.0 (Mac OS X 10.4)
	Firefox 1.0

インターネットまたはイントラネットへの接続

インターネットまたはイントラネット上でデータベースを公開する場合、ホストコンピュータで FileMaker Pro または FileMaker Server Advanced を起動し、共有するデータベースを開いておく必要があります。また、次の点にも注意してください。

- データベースを公開する場合には、TCP/IP を使用して常時インターネットまたはイントラネットに接続しているコンピュータを使用することを強くお勧めします。インターネットに常時接続していなくても Web 上でデータベースを公開することは可能ですが、Web ユーザはホストするコンピュータがインターネットまたはイントラネットに接続している場合にのみデータベースにアクセスすることができます。
- ホストコンピュータは、静的、つまり固有な専用の IP アドレスまたはドメイン名を使用する必要があります。インターネットサービスプロバイダ (ISP) に接続してインターネットを使用する場合、IP アドレスは動的に割り当てられる可能性があります。つまり、接続するたびに IP アドレスが変更されることになります。動的な IP アドレスを使用すると、Web ユーザがデータベースを見つけることが困難になります。使用できるインターネットへのアクセスの種類がわからない場合は、ISP またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて

FileMaker Pro インスタント Web 公開は、小規模のワークグループでデータを共有したり、ネットワーク上でユーザ個人のデータにアクセスすることを目的としてデザインされています。FileMaker Pro を使用してホストした場合、インスタント Web 公開では、最大 5 人の Web ユーザが同時にファイルを共有することができます。

FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホストについて

FileMaker Server Advanced を使用してデータベースをホストすると、より多くの Web ユーザと同時に情報を共有することができます。FileMaker Server Advanced では、カスタム Web 公開がサポートされており、XML、ODBC、JDBC などのデータベース接続技術もサポートされています。Web 上で公開するファイルを FileMaker Server Advanced でホストすると、その他にも次のような利点があります。

- 長時間実行されるアプリケーションに対するサポートの向上
- スケジュール処理（バックアップやリモート管理など）のサポートによるメンテナンスの軽減
- より多くのファイルの同時ホストのサポート
- SSL 暗号化によるセキュリティの向上

一般情報については、30 ページの「FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要」を参照してください。詳細については、『FileMaker Server Advanced カスタム Web 公開ガイド』を参照してください。

Web 公開における改善点

- 独自のホームページを作成し、デフォルトのデータベースホームページと置き換えることができます。
- 基本認証からフォームベースの認証方式に変更されました。データベースにアクセスするために認証を要求する場合は、ログインページから、Web ユーザがゲストまたは特定のアカウントとしてログインできます。アカウント名およびパスワードに、ISO-Latin-1 文字セット以外の文字も使用できるようになりました。
- Web ユーザが検索モードを使用する場合やレコードを編集する場合に、FileMaker のレイアウトで定義されているタブ順を使用することができます。
- インスタント Web 公開でタブコントロール（1 つ以上のタブパネルで構成されるレイアウトオブジェクト）を使用することができます。
- FileMaker Pro Advanced でフィールド、ボタン、レイアウトテキストなどのレイアウトオブジェクト用に作成したポップアップヘルプは、インスタント Web 公開で使用することができます。
- ドロップダウンカレンダーフィールド書式をインスタント Web 公開で使用することができます。対話型のカレンダーを使用すると、Web ユーザは簡単にフィールドに日付を入力することができます。
- Windows の JAWS スクリーンリーダおよび Internet Explorer 6.0 によるユーザ補助機能が向上しています。Web ユーザは、キーボードショートカットで [表示方法の切り替え] ポップアップメニューまたは [レイアウト] ポップアップメニューを使用して、異なる表示方法やレイアウトを選択することができます。[ソート] ダイアログボックスでは、Web ユーザは、Tab キーを使用してソートフィールドを選択することができます。

FileMaker Pro の新機能については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。FileMaker Pro Advanced の新機能については、『FileMaker Pro Advanced デベロップメントガイド』を参照してください。

旧バージョンの FileMaker Pro のファイルの公開

FileMaker Pro 7 のファイルの公開

FileMaker Pro 7 および FileMaker Pro 8 では同じファイル形式を使用するため、FileMaker Pro 8 では、FileMaker Pro 7 のファイルを変換せずに開くことができます。FileMaker Pro 8 のファイルを FileMaker Pro 7 で使用することもできます。ただし、レイアウトに新しい機能が含まれているときに旧バージョンでファイルを開いた場合、このレイアウトは、インスタント Web 公開ではサポートされません。

FileMaker Pro 8 でファイルを作成したり、開いたりした後は、旧バージョンの FileMaker Pro を使用してデータベースの設計やレイアウト（特に FileMaker Pro 8 で変更された機能）を変更しないことをお勧めします。

ファイルメーカー Pro 6 以前のファイルの公開

ファイルメーカー Pro 6 以前のバージョンから新しいファイル形式にデータベースを変換する前に、『旧バージョンの FileMaker データベースの変換』ガイドを参照してください。このマニュアルの PDF ファイルは、www.filemaker.co.jp から入手することができます。

インスタント Web 公開で共有されているファイルを変換する場合は、次の点を考慮してください。

- Web 表示用に選択できるレイアウトの制限がなくなりました。つまり、Web ユーザは、ユーザアカウントに基づいてすべてのレイアウトを利用することができます。ファイルメーカー Pro 6 以前で提供されていた Web スタイルはサポートされなくなりました。ファイルの変換後に、各ユーザアカウントが Web 上で利用できるレイアウトを再評価してください。
- アクセス権モデルが改善されました。ユーザ名とパスワードを再度割り当てて、統合セキュリティモデルを活用することを検討してください。アカウントとアクセス権の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- Web に対するスクリプトのサポートが強化されています。
 - Web ユーザにアクセス権を設定して、特定の個々のスクリプトの実行は許可し、他のスクリプトの実行は防止することができます。
 - ScriptMaker™ のスクリプトステップが「Web 互換」として明確に示されるようになり、Web ユーザ専用のスクリプトを作成することができます。ファイルの変換後、Web ユーザが実行する可能性のある各スクリプトを開き、[Web 互換を区別して表示] チェックボックスを選択します。これにより、Web ブラウザから実行した場合に予期せぬ結果の原因となりうるステップがスクリプトに含まれているかどうかを確認することができます。
 - Web 上では、スクリプトは、常に[エラー処理]が有効な状態で実行されます。[エラー処理]が無効である（選択解除されている）ことを前提とするスクリプトでは、同じように機能しない可能性があります。変換後にファイルを十分にテストしてください。
- Web ユーザは、フォーム形式、リスト形式、および表形式のレイアウト表示形式を動的に切り替えてデータを操作することができます。[レイアウト設定] ダイアログボックスの[表示]で、特定の表示形式へのアクセスを制限することができます。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- FileMaker Pro クライアントではインスタント Web 公開を使用してデータベースをホストすることができなくなりました。ファイルはホストコンピュータ上で Web 公開する必要があります。
- 表形式において、レコードの範囲に開始点と終了点を指定することができなくなりました。代わりに、開始点と次の 50 レコード（または対象レコードの残りのうち、いずれか少ない方）が表示されるように指定することができます。
- Web 上で公開するファイルの URL 構文が変更されています。Web 上のデータベースにアクセスするためのリンクを手動で作成している場合は、ファイルの変換後にリンクを更新する必要があります。詳細については、13 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。
- Web セキュリティデータベースはサポートされなくなりました。Web ベースのセキュリティを確保するために Web セキュリティデータベースに依存している場合は、FileMaker Pro で、アカウント、パスワード、および関連するアクセス権を変換後のデータベースファイルに移動する必要があります。

第 2 章

Web 上へのデータベースの公開

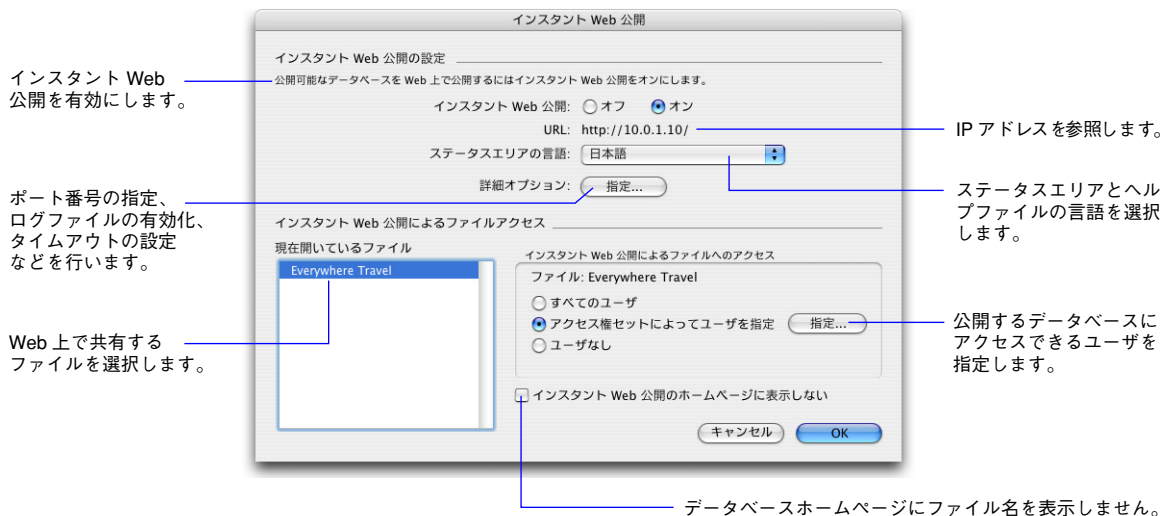
FileMaker Pro では、インスタント Web 公開を使用した動的な方法や、データを HTML または XML にエクスポートする静的な方法で、Web 上で簡単にデータベースを共有することができます。LAN または WAN に接続している場合は、追加のソフトウェアを使用することなくファイルを共有することができます。インターネット上でファイルを共有するには、データベースをホストする場合のインターネットアクセスと情報について、インターネットサービスプロバイダ (ISP) にお問い合わせください。

インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有

FileMaker Pro を使用して Web 上でデータベースを公開するには、インスタント Web 公開機能を有効にし、Web ブラウザから各データベースにアクセスすることができるユーザアカウントを決定します。

インスタント Web を使用可能にするには、次の操作を行います。

1. データベースを開きます。
2. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開き、[インスタント Web 公開] を有効にします。
 - Windows: [編集] メニューの [共有設定] サブメニューから [インスタント Web 公開...] を選択します。
 - Mac OS X: [FileMaker Pro] メニューの [共有設定] サブメニューから [インスタント Web 公開...] を選択します。



FileMaker Pro の [インスタント Web 公開] ダイアログボックス

- 開いているファイルの一覧から、Web 上で公開するファイル名を選択します。
- ファイルにアクセスすることができるユーザを選択します。

選択するオプション	アクセス権が与えられるユーザ
すべてのユーザ	データベースをホストするコンピュータの IP アドレスまたはドメイン名を知っているすべてのユーザ。
アクセス権セットによってユーザを指定	選択したユーザにデータベースへのアクセスを許可します。ユーザは、[アカウントとアクセス権] で定義されたアカウント名とパスワードを入力する必要があります。
ユーザなし	これはデフォルトの設定で、どのユーザもインスタント Web 公開でデータベースにアクセスすることはできません。

- Web からファイルにアクセスする場合、FileMaker Pro の [ファイルオプション] ダイアログボックスの [次のアカウントを使用してログイン:<アカウント名>] 機能は動作しません。
 - ゲストアカウントが、インスタント Web 公開拡張アクセス権を持つ唯一のアカウントである場合を除き、Web ユーザがゲストアカウントで自動的にログインすることはありません。インスタント Web 公開に対してゲストアカウントを有効にする場合の詳細については、17 ページの「ファイルへのログイン」および FileMaker Pro のヘルプを参照してください。
 - ゲストが共有データベースにログオンしているときにインスタント Web 公開の設定に変更を加えると、ゲストはセッションから接続解除され、データベースホームページに戻ります。最適な結果を得るには、データベースが閉じている間に設定の変更を行ってから、FileMaker Pro を再起動します。
- 公開する各データベースに対して、手順 3 と 4 を繰り返します。
 - [OK] をクリックするか、または他の設定を選択します。

ヒント ビルトインのインスタント Web 公開データベースホームページにファイル名を表示しないようにするには、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスの [インスタント Web 公開のホームページに表示しない] を選択します。これは、ソリューションに複数のファイルが含まれていて、一部のファイル名を表示しない場合に便利です。

次の点に注意してください。

- この章に記載している方法は、FileMaker Pro でデータベースをホストするための方法です。FileMaker Server Advanced でファイルをホストすると、より多くの Web ユーザとデータベースを共有したり、より多くのファイルを公開したりすることができます。詳細については、30 ページの「FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要」を参照してください。
- Mac OS X では、オペレーティングシステムのパスフレーズを入力するようプロンプトが表示される場合があります。詳細については、11 ページの「Web 公開時のポート番号の指定」を参照してください。
- [インスタント Web 公開] ダイアログボックスでファイルへのアクセスを割り当てると、関連するユーザのアクセス権セットの拡張アクセス権設定が変更されます。拡張アクセス権の設定は、[アカウントとアクセス権の定義] ダイアログボックスで直接確認および変更することができます。[アカウントとアクセス権] でのアクセス権の設定と変更の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- インスタント Web 公開を有効にせずに、各ファイルにアクセスできるユーザを指定することができます。
- 開いているファイルとファイルアクセスオプションの一覧が表示される [インスタント Web 公開] ダイアログボックスでは、完全アクセス権がない場合、またはファイルの拡張アクセス権を管理するためのアクセス権がない場合はグレー表示されます。

インスタント Web の言語の選択

インスタント Web 公開のインターフェース、ポップアップヘルプ、およびオンラインヘルプで使用する言語を選択することができます。言語を選択または変更しても、実際のデータに影響はありません。

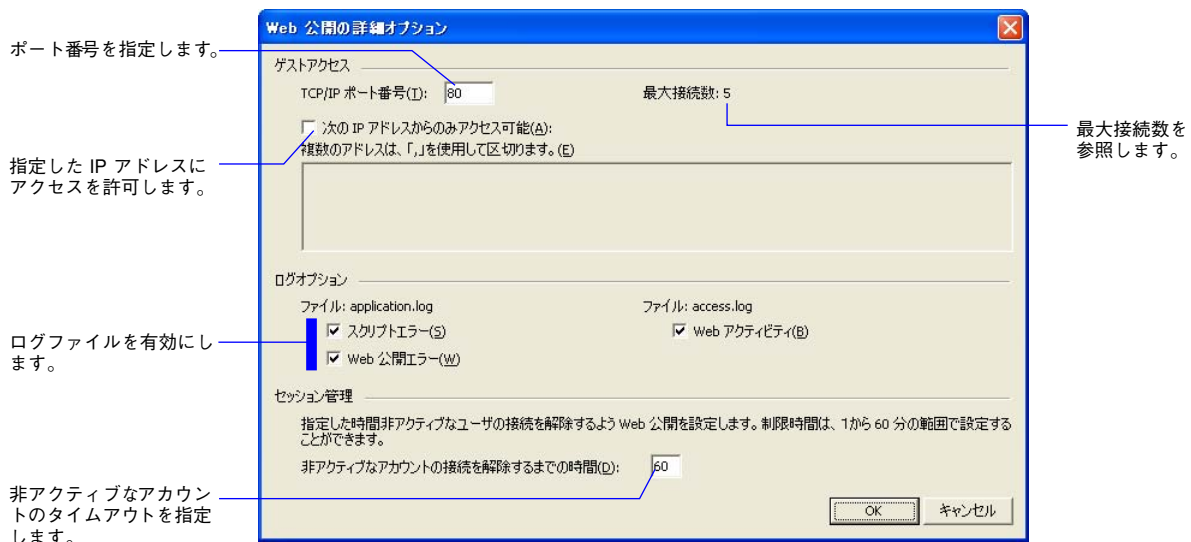
言語を指定するには、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開き、ステータスエリアに表示する言語を選択して、[OK] をクリックします。

Web 公開時のポート番号の指定

[インスタント Web 公開] ダイアログボックスで TCP/IP アドレスを指定することにより、Web ブラウザはホストコンピュータ上の FileMaker Pro データベースの場所を判断することができます。デフォルトでは、FileMaker のファイルはポート 80 から共有されます。他の Web サーバーや他のアプリケーションによってポート番号 80 がすでに使用されている場合は、[TCP/IP ポート番号:] を 591 に変更することをお勧めします。ポート番号 591 は、FileMaker Web 公開専用として IANA (Internet Assigned Numbers Authority) に登録されています。

ポート番号を指定または変更するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックして、目的の TCP/IP ポート番号を入力します。
3. [OK] をクリックします。続いて、[OK] をクリックして変更を保存します。



FileMaker Pro の [Web 公開の詳細オプション] ダイアログボックス

重要 80 以外のポート番号を使う場合は、IP アドレス（またはドメイン名）の後にコロンを入力し、使用するポート番号を入力するとアクセスすることができます。たとえば、Web ブラウザに「12.34.56.78:591」または「http://accounts.yourcompany.com:591」のように指定します。または、IP アドレスとポート番号が含まれるリンクからデータベースへのアクセスを提供することができます。詳細については、13 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。

Mac OS X でのポート番号の変更

Mac OS X では、インスタント Web 公開を初めて有効にすると、1024 未満のポート番号で Web 上に公開できるようにコンピュータの設定を一時的に変更する許可を求められます。Mac OS X では、セキュリティ上の理由から 1024 未満のポートへのアクセスは制限されています。1024 未満のポートを使用するように FileMaker Pro を設定するには、Mac OS X のインストール時に作成したパスフレーズなどの管理者パスワードを入力する必要があります。1024 から 65535 の範囲のポート番号を使用する場合は、管理者パスワードは必要ありません。管理者権限を使用したアカウントの作成の詳細については、Mac OS X のヘルプを参照してください。

Web 接続の最大数の確認

ファイルに同時にアクセスできる Web ユーザの数は、データベースをホストするアプリケーションによって異なります。FileMaker Pro では、最大 5 人の Web ユーザを同時にホストすることができます。より多くの Web ユーザとファイルを共有するには、FileMaker Server Advanced を使用してください。

許可されている Web 接続の最大数を参照するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックして、[最大接続数] を参照します。
3. [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。

最大数に達した場合、それ以上の Web ユーザがデータベースにアクセスしようとする時、Web ブラウザにエラーメッセージが表示されます。

重要 ユーザの最大数に達している理由が不明な場合は、Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしていない可能性があります。セッションがタイムアウトするまで待つか、またはデータベースから Web ユーザを接続解除することができます。詳細については、20 ページの「データベースからのログアウトと Web セッションの終了」を参照してください。

指定した IP アドレス以外のアクセスの制限

Web 上でデータベースにアクセスできる IP アドレスを制限することができます。たとえば、12.34.5.6 という IP アドレスの Web ユーザにのみデータベースへのアクセスを許可するように設定することができます。

データベースにアクセスすることができる IP アドレスを指定するには、次の操作を行います。

1. [Web 公開の詳細オプション] ダイアログボックスで、[次の IP アドレスからのみアクセス可能:] を選択して、ファイルにアクセスすることができる IP アドレスを入力します。複数の IP アドレスはコンマ (,) で区切ります。
2. [OK] をクリックします。続いて、[OK] をクリックして変更を保存します。

注意 IP アドレスが類似している複数の Web ユーザにアクセスを許可するには、12.34.5.* や、12.* のように、IP アドレスのセクションにアスタリスク (*) を入力します。ただし、最初のセクションにアスタリスクを入力することはできません。

非アクティブな Web アカウントの接続解除

Web ユーザのセッション (Web サーバーとの接続) がアイドル状態の場合に Web ユーザがデータベースとの接続を維持する時間を指定することができます。Web ユーザが Web ブラウザからリクエストの送信 (検索、作成、変更の送信、レイアウトの変更など) を行わない場合、セッションはアイドル状態と見なされます。また、Web ユーザが Web ブラウザのウィンドウを閉じた場合、別の Web サイトに移動した場合、または [ログアウト] ボタンをクリックせずに Web ブラウザを終了した場合も、セッションはアイドル状態になります。

セッションがタイムアウトするまでアイドル状態を維持できる間隔を指定するには、次の操作を行います。

1. [Web 公開の詳細オプション] ダイアログボックスを開きます。
2. [非アクティブなアカウントの接続を解除するまでの時間:] で、アイドル状態の Web ユーザを接続解除するまでの時間 (1 分から 60 分) を指定し、[OK] をクリックして変更を保存します。

Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない可能性がある場合は、短いセッションタイムアウトを指定します。Web ユーザを自動的にログオフさせるスクリプトボタンを作成することもできます。詳細については、29 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」および 20 ページの「データベースからのログアウトと Web セッションの終了」を参照してください。

HTML ページからデータベースへのリンク

Web ユーザが IP アドレスまたはドメイン名を入力してデータベースにアクセスする代わりに、データベースへのリンクが指定された HTML ページを作成することができます。

表示するページ	使用するリンク
データベースホームページまたは作成したホームページの場合	データベースが FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced でホストされている場合 <code>http://<IP アドレス>:<ポート番号></code> データベースが FileMaker Server Advanced でホストされている場合 <code>http://<IP アドレス>:<ポート番号>/fmi/iwp/</code>
特定のデータベース	<code>http://<IP アドレス>:<ポート番号>/fmi/iwp/cgi?-db=<データベース名>&-loadframes</code>

次の点に注意してください。

- ファイルを頻繁に閉じたり、Web ユーザが多くのデータベースにアクセスする場合は、データベースホームページにリンクすることを検討してください。データベースホームページでは、開かれていて、インスタント Web 公開で共有されているすべてのデータベースのリンクが動的に作成されます。データベースホームページの詳細については、16 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。
- 提供したリンクをクリックすると、データベースにアクセスして、デフォルトのレイアウトを表示することができます。他の機能が必要な場合は、必要なタスクを自動化する起動スクリプトをデータベースに含めることを検討してください。
- 可能であれば、静的な IP アドレス上でデータベースをホストするか、またはドメイン名を使用してください。一部の環境では、コンピュータがネットワークに再接続するたびに、新しい IP アドレスが動的に割り当てられます。
- 特定のデータベースにリンクするための URL 構文は、ファイルメーカー Pro 6 以前とは異なるため、ファイルを変換した後にリンクを更新する必要があります。
- FileMaker Pro でファイルをホストする場合は、静的な HTML ページと、ページで使用するイメージを、FileMaker Pro フォルダ内にある「Web」フォルダに保存することができます。

カスタムホームページの使用

デフォルトのデータベースホームページを置換するには、「iwp_home.html」という名前の HTML ファイルを FileMaker Pro フォルダ内の Web フォルダに配置します。Web ユーザがセッションからログアウトするか、セッションがタイムアウトすると、ユーザはこのページに戻ります。

注意 FileMaker Server Advanced を使用してデータベースをホストしている場合には、「FileMaker Server/Web Publishing /iwp」フォルダにカスタムホームページを配置します。

製品 CD に格納されている「iwp_home.html」ファイルをカスタムホームページのベースとして使用することができます。ファイルに変更を加える前に、元のファイルをコピーしておいてください。また、Web ユーザを同じ Web サイトの別のページにリダイレクトするような独自のホームページを作成することもできます。

Web フォルダ (FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced) または iwp フォルダ (FileMaker Server Advanced) に「iwp_home.html」ファイルが存在しない場合、インスタント Web 公開ではデフォルトのデータベースホームページが使用されます。

ユーザがスクリプトによってログアウトしたり、セッションがタイムアウトした場合に、カスタムホームページがインスタント Web 公開のレイアウトフレームに読み込まれないようにするには、「iwp_home.html」ファイルのヘッダセクションに次の JavaScript を追加する必要があります。

```
if (window != window.top) top.location = "/fmi/iwp/cgi?-home;
```

`top.location` には、ホームページの URL を指定することも他の任意の URL を指定することもできます。

静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開

インスタント Web 公開では、Web ブラウザが FileMaker Pro にデータを要求するたびに、Web ブラウザのウィンドウに表示されているデータが更新されます。これを動的な公開と呼びます。静的な公開では、FileMaker から公開するデータが、新しいリクエストのたびに更新されることはありません。

次の場合は、静的な公開をお勧めします。

- データが頻繁に変更されない場合
- インターネットに常時接続していない場合
- ユーザがデータベースに直接接続しない場合

静的データ公開には以下が必要です。

- Web サーバー上でホストされている Web サイト（インスタント Web 公開を有効にして、FileMaker Pro の「Web」フォルダ内にある項目の Web サーバーとして FileMaker Pro を使用することができます）
- FileMaker Pro、およびデータが含まれる 1 つまたは複数のデータベース
- インターネットまたはイントラネットに接続されているコンピュータ（Web ページを Web サーバーにアップロードする場合にのみ接続する必要があります）
- Web サーバアプリケーションへファイルをコピー（またはアップロード）するためのアプリケーション
- テキスト編集アプリケーションまたは Web オーサリングアプリケーション（オプション）

静的なデータの一般的な公開手順

静的な公開では、データを Web ページにエクスポートし、エクスポートした Web ページを既存の Web サイトに追加します。Web ユーザは、データベースではなく Web サイトに接続します。

FileMaker Pro から静的なデータを公開するには、次の操作を行います。

1. 適切なレコードを検索して、[ファイル]メニューの [レコードのエクスポート...] を選択し、[HTML 表形式] または [XML] を選択します。
 - [HTML 表形式] は、サポートされている Web ブラウザで表示できるデータの表を生成する場合に選択します。テキスト編集アプリケーションまたは Web オーサリングアプリケーションを使用して、表の外観をカスタマイズすることができます。
 - [XML] は、XSLT スタイルシートを使用してテーブルを変換する場合に選択します。
2. 既存の Web ページから新しい Web ページへのリンクを追加します。
3. 新しい Web ページを Web サーバーにコピーします。

静的な Web ページでは、保護のために FileMaker Pro のアクセス権を使用することはできませんが、ファイルを FileMaker Pro の「Web」フォルダに保存して、ファイルにアクセス可能な IP アドレスを [インスタント Web 公開] ダイアログボックスで指定することによって、アクセスを制限することができます。詳細については、12 ページの「指定した IP アドレス以外のアクセスの制限」を参照してください。他のセキュリティオプションについては、Web サーバーのマニュアルを参照するか、あるいは ISP またはネットワーク管理者に確認してください。

レコードを HTML または XML としてエクスポートする方法の詳細については、FileMaker Pro のヘルプを参照してください。XML の一般情報とサンプルファイルについては、www.filemaker.co.jp にアクセスしてください。

注意 上に示す方法は、FileMaker Pro で静的なページをホストするための方法です。FileMaker Server Advanced を使用してファイルをホストする場合は、FileMaker Server Advanced に付属の『FileMaker Server Advanced Web 公開インストールガイド』を参照してください。

第 3 章

Web 上での FileMaker データベースの操作

FileMaker Pro インスタント Web 公開では、データベースを操作するための Web ページとインターフェースは自動的に提供されます。レコードをブラウズ、検索、ソート、追加、編集、および削除するには、ステータスエリアのボタンをクリックします。

インスタント Web 公開を有効にしてファイルを共有する場合、データベースのアカウントを持っていて、データベースがホストされている IP アドレスまたはドメイン名を知っている任意のユーザがファイルにアクセスすることができます。アカウントのアクセス権に応じて、次の操作を行うことができます。

- 異なるレイアウトや表示形式でレコードを表示する
- レコードを追加、複製、および削除する
- フィールドのデータを追加および編集する
- データベースを検索してレコードのサブセットを表示する
- データベースをソートしてレコードを並べ替える

重要 デスクトップと Web の両方に対してデータベース機能へのユーザアクセスを制限するには、アカウントおよびアクセス権セットを定義します。

Web ブラウザの必要条件

公開されている FileMaker Pro データベースを使用するには、以下が必要です。

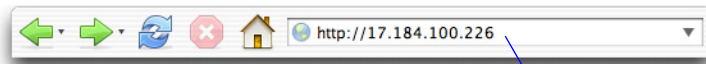
- Web ブラウザ

Windows XP または Windows 2000 の場合	Mac OS X の場合
Internet Explorer 6.0	Safari 1.1 (Mac OS X 10.2)、Safari 1.2、1.3 (Mac OS X 10.3)
Firefox 1.0	Safari 2.0 (Mac OS X 10.4)
	Firefox 1.0

- インターネットまたはイントラネットへのアクセス。
- データベースファイルをホストするコンピュータの IP (Internet Protocol) アドレスまたはドメイン名。
- JavaScript が Web ブラウザで使用可能になっている必要があります。

Web から FileMaker データベースへのアクセス

データベースホームページにアクセスするには、Web ブラウザを開いて、ホストコンピュータの IP アドレスを入力します。



IP アドレスまたはドメイン名を
ブラウザのウィンドウに入力します。

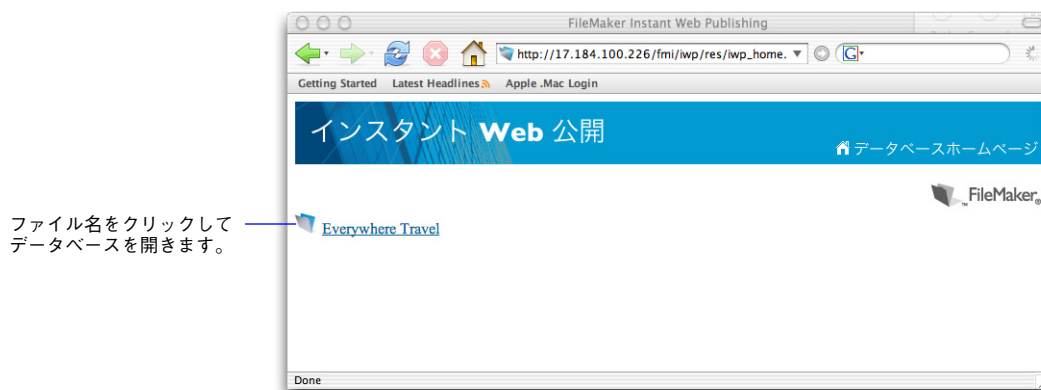
- 場合によっては、IP アドレスの代わりに、“http://accounts.yourcompany.com” のような使用するコンピュータのドメインおよびホスト名、または、“http://yourcompany.com” のようなホスト名を入力することも可能です。IP アドレスへのドメインおよびホスト名のマッピングの詳細については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- FileMaker Pro で、デフォルト（初期設定）である 80 以外のポート番号を使用するように設定する場合は、そのポート番号を IP アドレスの後に追加する必要があります。たとえば、“10.0.0.1:88” のように入力します。11 ページの「Web 公開時のポート番号の指定」を参照してください。
- Web 上で公開するデータベースへのリンクが含まれる HTML ページを作成することもできます。詳細については、13 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。

データベースホームページには、ホストコンピュータで開かれていて、Web 上で共有できるように設定された FileMaker Pro データベースが表示されます。

開いている共有データベースの一覧が表示されない場合には、次の手順を行います。

- ファイル名を確認します。ファイル名は固有である必要があり、シングルクォーテーションもダブルクォーテーションも含まれていないことが必要です。
- [インスタント Web 公開] ダイアログボックスの [インスタント Web 公開のホームページに表示しない] チェックボックスの選択が解除されていることを確認します。

開くデータベースのファイル名をクリックします。



データベースホームページに表示されたインスタント Web 公開で共有されているファイル

ファイルへのログイン

データベースを開くときに、アカウント情報を入力するようメッセージが表示される場合があります。

フォームベースのログインページ

- ゲストアカウントのインスタント Web 公開拡張アクセス権が有効である場合、Web ユーザは、アカウント名およびパスワードを使用してログインする代わりにゲストアカウントでログインすることができます。
- ゲストアカウントが、インスタント Web 公開拡張アクセス権が有効にしてある唯一のアカウントである場合、Web ユーザは、ゲストアカウントで自動ログインし、ログインページは表示されません。
- ゲストアカウントのデフォルトのアクセス権セットは、「閲覧のみ」アクセスを提供します。デフォルトのアクセス権は、[アカウントとアクセス権の定義] ダイアログボックスの [アカウント] タブで変更することができます。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- 一般的には、Web ユーザが Web ブラウザからアカウントのパスワードを変更することはできません。ただし、[パスワード変更] スクリプトステップを使用すると、この機能をデータベースに組み込み、Web ユーザがパスワードを変更できるようにすることができます。
- [再ログイン] スクリプトステップを使用すると、ユーザは Web ブラウザからログインアカウントを変更することができます。たとえば、ゲストアカウントから、より多くの機能を使用できる別のアカウントに切り替えることができます。
- 基本認証からフォームベースの認証方式に切り替えられたため、アカウント名およびパスワードに ISO-Latin-1 文字セット以外の文字を使用することができます。
- FileMaker Server Advanced では、ホストされているデータベースが一覧表示されるデータベースホームページで、各 Web ユーザがアクセスできるデータベースのみを制限して表示することができます。このオプションが選択されている場合は、Web ユーザがデータベースホームページを表示する前に、アカウント情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

インスタント Web 公開でのデータの操作

FileMaker のインスタント Web 公開のステータスエリアは、デスクトップアプリケーションと同様な設計になっています。Web ユーザは、ブラウザモードまたは検索モードで、Web 上でデータベースを操作します。レコードの入力、編集、削除、検索など、Web ユーザによるデータベースの操作を可能にするすべての機能には、ステータスエリアからアクセスすることができます。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ

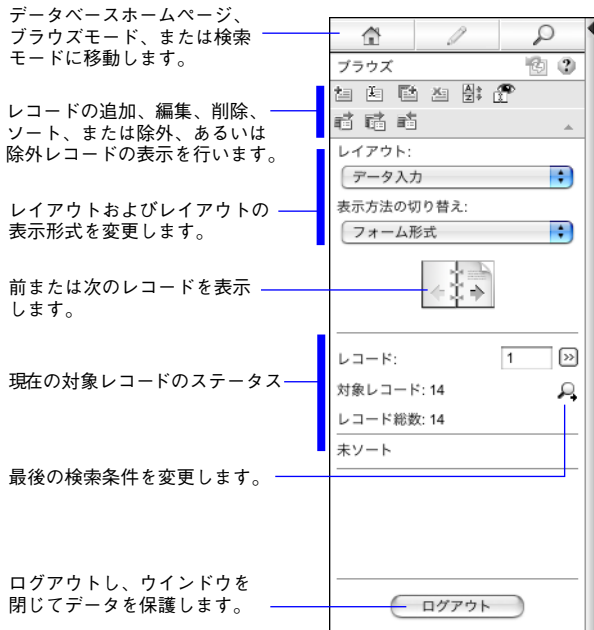
ブラウザモードでのレコードの表示と変更

ブラウザモードでは、Web ユーザは、ステータスエリアのアイコンをクリックしてタスクを実行します。アカウント名およびアクセス権によってアクセスが提供されている場合は、次の操作を実行することができます。

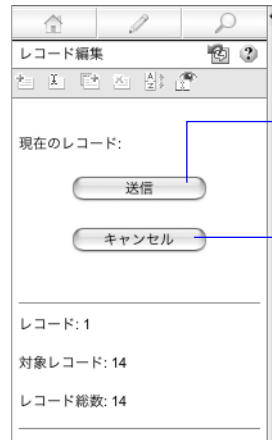
- レコードの作成
- レコードの編集
- レコードの複製
- レコードの削除
- 対象レコードのソート（現在のレイアウトのフィールドに基づく）
- 全レコードの表示
- 対象レコードからの現在のレコードの除外
- 対象レコードからの複数の連続するレコードの除外
- 除外レコードの表示（および既存の対象レコードの非表示）

アイコンの説明を参照するには、そのアイコン上にカーソルを置きます。手順の概要については、インスタント Web 公開ヘルプを参照してください。ヘルプファイルを表示するには、ステータスエリアの疑問符 (?) をクリックします。

重要 レコードのデータを入力または編集した場合、Web ユーザは、ステータスエリアの [送信] ボタンをクリックしてホストにレコードを保存する必要があります。



ブラウズモードでのステータスエリア

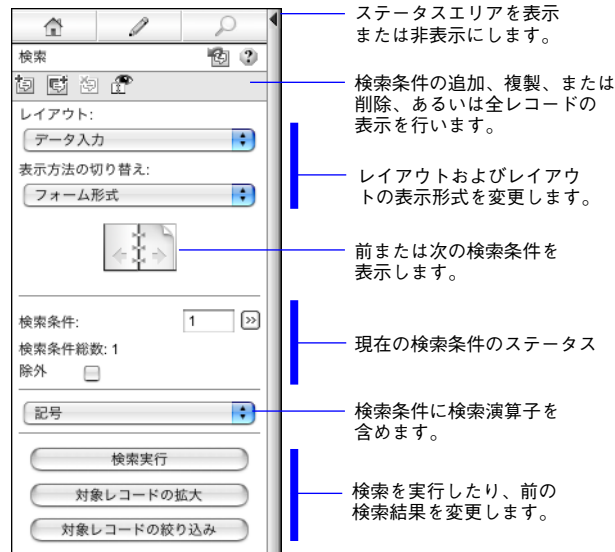


レコード編集時のステータスエリア

レコードの検索

検索モードでは、Web ユーザは、FileMaker Pro デスクトップユーザと同じ検索機能を使用することができます。次の操作を実行することができます。

- 検索条件の作成
- 検索条件の複製
- 検索条件の削除
- 全レコードの表示
- 対象レコードの拡大（拡張）または絞り込み（抑制）



検索モードでのステータスエリア

手順の概要については、インスタント Web 公開ヘルプを参照してください。ヘルプファイルを表示するには、ステータスエリアの疑問符 (?) をクリックします。

注意 Web ユーザは、検索条件を入力または編集した後に、ステータスエリアの [検索実行] ボタンをクリックして、リクエストをホストに送信する必要があります。

Web ユーザは、ステータスエリアの表示、非表示を切り替えることができます。ユーザインターフェースを完全に制御するには、起動スクリプトを作成して、ステータスエリアを非表示にすることができます。詳細については、26 ページの「ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ」を参照してください。

データベースからのログアウトと Web セッションの終了

データベースの操作を終了したら、ステータスエリアの [ログアウト] ボタンをクリックして、Web ブラウザアプリケーションを終了してください。ログアウトする前にブラウザウィンドウを閉じたり、ブラウザアプリケーションを終了した場合、セッションはまだ開いています。これによって、次の状況が発生します。

- 他のユーザがデータにアクセスすることができなくなる
- 指定されたタイムアウトになるまではデータがハッカーによる攻撃を受けやすい

この場合、セッションがタイムアウトになるまで待つか、またはホストマシン上でファイルを閉じることができます。ホストマシン上でファイルを閉じた場合は、すべての Web ユーザの接続が解除されます。Web ユーザにセッションからのログアウトを要求するメッセージを送信する方法はありません。

Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない可能性がある場合は、短い時間のセッションタイムアウトを指定します。これによって、Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない場合の問題が最小限に抑えられます。詳細については、12 ページの「非アクティブな Web アカウントの接続解除」を参照してください。Web ユーザを安全にログオフさせるスクリプトボタンを作成することもできます。29 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。

セキュリティに不安がある場合は、FileMaker Server Advanced でファイルをホストし、Web ブラウザの SSL 暗号化を有効にすることを検討してください。詳細については、『FileMaker セキュリティガイド』を参照してください。

ステータスエリアが非表示の状態でのデータベースの表示

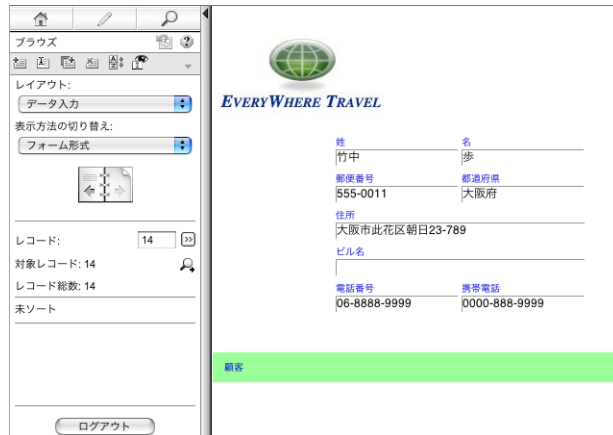
デスクトップバージョンの FileMaker Pro と同様に、データベースが Web ブラウザで開かれたときにステータスエリアを非表示にしてロックするスクリプトを作成することができます。これによって、カスタムインターフェースをデザインすることができます。

次の点に注意してください。

- ステータスエリアをロックする場合は、必要なすべての機能をユーザに提供するスクリプトおよびボタンを手動で作成する必要があります。たとえば、ユーザが、新規レコードの作成、データを編集するための編集モードへの切り替え、レコードの削除、レイアウトの変更などを行うことができるように、ボタンを作成する必要があります。データベースファイルを入念にテストして、重要なすべての機能へのアクセスが Web ユーザに提供されていることを確認することが非常に重要です。
- データを適切に保護するには、Web ユーザをデータベースからログアウトさせてセッションを終了するスクリプトを作成する必要があります。詳細については、29 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。
- インスタント Web 公開のヘルプファイルに記載されている指示のほとんどは適切ではなくなるため、ユーザがカスタム環境からデータを操作するのを支援するため、ドキュメントを用意することをお勧めします。

FileMaker Pro とインスタント Web 公開の違い

インスタント Web 公開の操作感は、FileMaker Pro デスクトップアプリケーションを使用する場合と非常によく似ています。Web ユーザは、検索モードと編集モードの切り替え、レイアウトや表示形式の選択など、多くの操作を実行することができます。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ



FileMaker Pro レイアウトに表示されるデータ

インスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスする利点

FileMaker Pro のインスタント Web 公開機能には、次のような独自の利点があります。

- 既存のデータベースを使用して、Web 上にすばやく簡単にソリューションを展開することができます。互換性のある Web ブラウザを使用して任意のユーザとデータを共有するために、Web オーサリングツールを使用したり、HTML や CSS のコードを作成したり、他の技術を使用する必要はありません。
- ホームオフィスや出張先を問わず、リモートでデータにアクセスすることができます。
- ステータスエリアを非表示にしてロックすることにより、Web ベースのカスタムアプリケーションを簡単に展開することができます。

FileMaker Pro を使用してデータベースにアクセスする利点

Web からのデータベースへのアクセスは、FileMaker Pro を使用した場合とよく似ていますが、FileMaker Pro ネットワーククライアントからデータベースにアクセスしたときほど高速に応答しません。

- Web 上ではカスタマイズ機能を利用できません。Web ユーザはレイアウトおよび異なるレイアウト表示形式を選択することができますが、フィールド、レイアウト、スクリプト、リレーションシップなどを追加、削除、または変更することはできません。
- Web ユーザはハードドライブを直接操作することはできません。そのため、データのインポートとエクスポート、ドラッグ&ドロップ、OLE オートメーション、ActiveX、および Apple Event は動作しません。
- Web ユーザがデータを入力できるのは、テキスト、数字、日付、時刻、およびタイムスタンプの各フィールドだけです。イメージやサウンド、QuickTime ファイルなどのオブジェクトフィールドのオブジェクトを入力または変更することはできません。
- Web ユーザは、RTF (Rich Text Formatting) でデータを入力することはできません。
- Web ユーザは、複数のページの複雑なレポートを表示および印刷することはできません。
- Web ユーザは、データのスペルをチェックすることはできません。
- Web ユーザは、1つの Web ブラウザウインドウからのみデータベースを操作する必要があります。

- Web ブラウザでは、FileMaker Pro のキーボードショートカットを利用できません。
- FileMaker Pro Advanced で作成された Web ブラウザで表示されるポップアップヘルプは、ページが読み込まれたときにのみ更新されます。

第 5 章

サイトのテスト、監視、および保護

Web 上で公開されたデータベースが使用可能であることをユーザに通知する前に、データベースが意図どおりに表示され、機能することを確認することが重要です。

- レコードの検索、追加、削除、およびソートなどの機能を異なるアカウントとアクセス権セットでテストする。
- 異なるアカウントでログインして、さまざまなアクセス権セットが意図したとおりに動作することを確認する。権限のないユーザがデータにアクセスしたり、データを変更することができないようにしてください。
- すべてのスクリプトボタンをクリックして、結果が意図したとおりであることを確認する。
Web で安全に使用できるスクリプトの設計の詳細については、27 ページの「スクリプトとインスタント Web 公開」を参照してください。
- 公開されたデータベースを異なるオペレーティングシステムやブラウザを使ってテストする。
- Web ページが正しく表示されない場合は、15 ページの「Web ブラウザの必要条件」および第 4 章「インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン」を参照してください。

ネットワークに接続した状態でのデータベースのテスト

公開されたデータベースにアクセスするには、Web ブラウザソフトウェアを開き、ホストコンピュータの IP アドレスまたはドメイン名を入力して、return または Enter キーを押します。IP アドレスは、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスで参照できます。詳細については、16 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。

ネットワークに接続しない状態でのデータベースのテスト

ネットワークに接続しない場合でも、互換性のあるすべての Web ブラウザでデータベースをテストすることをお勧めします。Web ブラウザソフトウェアを開き、“http://localhost/” または “http://127.0.0.1/” と入力して、return または Enter キーを押します。データベースホームページに、インスタント Web 公開が有効になっていて、開いているすべてのデータベースファイルの一覧が表示されます。開いている共有データベースの一覧が表示されない場合には、16 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。

ログファイルでの Web アクティビティの監視

ログオプションを設定して、データベースが Web ユーザから受け取るアクティビティを記録することができます。ログファイルを有効にすると、FileMaker によって、「FileMaker Pro 8/Web logs」フォルダにログファイルが作成されます。ログファイルは、テキストファイルを開くことができるアプリケーションで表示することができます。

ログファイルを作成するには、次の操作を行います。

1. Windows: [編集] メニューの [共有設定] サブメニューから [インスタント Web 公開...] を選択します。
Mac OS X: [FileMaker Pro] メニューの [共有設定] サブメニューから [インスタント Web 公開...] を選択します。

2. [詳細オプション:] で、[指定...] をクリックして、作成するログファイルを有効にします。

選択するオプション	記録内容	ログファイル名
スクリプトエラー	Web ユーザがスクリプトを実行したときに生成されるエラーに関する情報（たとえば、スクリプトステップが Web 互換でない場合は、実行されないスクリプトステップが記録されます）	application.log
Web 公開エラー	Web で共有されているデータベースをアクセスまたは操作するときに生成されるエラーに関する一般情報	application.log
Web アクティビティ	Web ユーザのアクティビティに関する情報（たとえば、ユーザの IP アドレスやアクセスしたページなど）	access.log

エラーコードの一覧と説明については、FileMaker Pro ヘルプの「Get（最終エラー）関数」を参照してください。

ログファイルを作成しない場合は、ログオプション領域のチェックボックスの選択を解除します。

3. [OK] をクリックします。続いて、[OK] をクリックして変更を保存します。

次の点に注意してください。

- Web アクティビティログでは、エントリが継続的にファイルに追加されます。エントリおよびファイルは自動的に削除されないため、ファイルの容量が非常に大きくなる可能性があります。ログファイルを作成する場合は、定期的にログファイルのアーカイブを作成して、ホストコンピュータのハードディスク容量を節約することを検討してください。
- セキュリティを最大限に高めるには、Web ユーザが FileMaker Pro のフォルダにアクセスしてログファイルを表示またはコピーできないようにします。
- エントリは、FileMaker によって処理された順番にログファイルに追加されます。
- FileMaker Pro の関数を使用してユーザのアクティビティを記録することもできます。関数の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

データの保護

データベースを公開する場合は、データへのアクセスが必要なユーザを判断することと、ユーザが実行可能なタスクを制御することが非常に重要です。さらに詳しい情報については、『FileMaker セキュリティガイド』を参照してください。

Web 上でデータベースを公開する際には、以下のセキュリティに関する考慮事項に注意してください。

- ユーザアカウントは、ファイルにアクセスするためにクライアントがどの技術を使用しているかに関係なく、同じ働きをします。たとえば、レコードを削除するアクセスを制限するアカウントを作成した場合、そのアカウント名とパスワードでデータベースにアクセスしたユーザは、Web ブラウザ、ODBC データソース、または別の FileMaker Pro のいずれからデータにアクセスしても、レコードを削除することはできません。
- 最も安全なのは、Web 公開に特化した「Web 専用」データベースを作成することです。このファイルには、外部に公開するレイアウト、スクリプト、およびフィールド定義のみが含まれるようにします。詳細については、『FileMaker セキュリティガイド』を参照してください。
- Web ユーザが複数のクライアントでファイルにアクセスする場合は、クライアントに複数のアカウントを提供することを検討します。たとえば、Web ブラウザからデータベースにアクセスする場合は、別の FileMaker Pro からアクセスする場合よりもアクセスが制限されたアカウント名とパスワードをユーザに提供します。
- 個々のファイルに対してインスタント Web 公開を有効にする場合は、すべてのユーザにアクセスを提供する代わりに、Web ユーザにアカウントおよびアクセス権セットを割り当てます。
- 特定のアカウントでレコードごとのブラウザアクセス権が制限されていても、レコードを削除するアクセス権が制限されていない場合、ユーザは、自分では表示できないレコードを削除することができます。
- 同じアカウントで関連フィールドを開いた場合、関連データは、関連フィールドが含まれるレイアウトに表示されます。

- インスタント Web 公開では、FileMaker Pro で定義されているアカウントおよびアクセス権セットを使用して、最適なセキュリティを確保します。詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。
- 「Web」フォルダ内に重要なドキュメントを保存しないでください。FileMaker Pro では、公開する複数のオブジェクトフィールドや静的な HTML ページで共有するイメージを FileMaker Pro フォルダ内の「Web」フォルダに配置することができますが、Web サーバーのアーキテクチャのため、「Web」フォルダ内のすべてのファイルはアクセス可能な状態になっており、他のユーザによって削除される可能性があります。
- スクリプトを慎重に確認して、スクリプトが Web 互換であること、およびステップの組み合わせによって予期しない結果が生じないようにします。詳細については、27 ページの「スクリプトとインスタント Web 公開」を参照してください。

索引

A

- ActiveX 21
- Apache、インスタント Web 公開データベースのホスト 30
- Apple Event 21

C

- CSS (Cascading Style Sheet) 23
 - 制限 23

F

- FileMaker Pro
 - Web アクセスの必要条件 16
 - Web 接続の最大数 12
 - インスタント Web 公開 9
 - インスタント Web 公開との違い 21
 - 起動時のレイアウトの設定 26
 - 旧バージョンのファイルの公開 8
 - 旧バージョンのファイルの変換 8
 - 静的な Web ページの公開 14
 - データベースのホスト 7
- FileMaker Pro Advanced
 - カスタムメニュー 25
 - ポップアップヘルプ 7, 22
- FileMaker Pro データベース、Web からアクセスする 15
- FileMaker Pro レイアウト
 - インスタント Web 公開用のデザイン 23
 - ポータルの使用 24
- FileMaker Server Advanced
 - カスタム Web 公開 5
 - セキュリティ 20
 - データベースのフィルタ 17
 - データベースのホスト 7, 20
 - プラグインの使用 25

I

- IIS、インスタント Web 公開データベースのホスト 30
- IP アドレス
 - アクセスの制限 12
 - 静的 6, 13
 - 動的 6
 - ブラウザへの入力 16
 - ポート番号の追加 16
- ISO-Latin-1 文字セット 7, 17
- ISP 6

M

- Mac OS X
 - Web 上でデータベースを公開する場合の条件 6
 - Web ブラウザの必要条件 15
 - ポート番号 11

O

- OLE 21
 - 制限 25

R

- RTF (Rich Text Formatting) 21

S

- SSL 暗号化 7, 20

T

- TCP/IP ポート番号 11

U

- [URL を開く] スクリプトステップ 29
- URL、データベースホームページへのリンク 13

W

- Web アクティビティの監視 31
- Web スタイル、サポートされない 8
- Web セキュリティデータベース、サポートされない 8
- Web 接続の最大数、FileMaker Pro 12
- Web ブラウザ
 - データベースを公開する場合の条件 6
 - 必要条件 15
 - 開いているデータベースの URL 13
- Web ページ、データベースを参照する 15
- Web ユーザ
 - FileMaker Pro の制限 21
 - アクティビティの記録 32
 - 最大接続数 20
 - データベースへのアクセス 18
 - ファイルへのアクセスの割り当て 10
- Windows
 - Web 上でデータベースを公開する場合の条件 6
 - Web ブラウザの必要条件 15

X

- XML
 - XSLT スタイルシート 5, 14
 - エクスポート 14

あ

- アイドルセッション、接続解除 12
- アカウントとアクセス権
 - ゲストアカウント 17
 - スクリプト 27
 - 設定 10
 - テスト 31
 - レイアウトの制限 23
- アカウント名およびパスワード、文字セットの制限 25
- アクセス権
 - アカウントとアクセス権も参照
- [アプリケーションを終了] スクリプトステップ 29

い

インスタント Web 公開

- Apache 30
- FileMaker Pro との違い 21
- FileMaker Pro レイアウト 23
- FileMaker Server Advanced を使用したホスト 30
- IIS 30
- Mac OS X 版の必要条件 6
- Web ユーザアクセス 10
- Windows 版の必要条件 6
- カスタムホームページ 7, 13
- 概要 5
- 検索モード 19
- ゲストアカウント 17
- 言語の選択 10
- 新機能 7
- スクリプトステップ、FileMaker Pro との違い 29
- スクリプトを使用した自動化 27
- ステータスエリアの非表示 26
- 静的な IP アドレスの使用 6
- 設定の変更 10
- ソート順の指定 27
- データベースのデザイン 23
- 動的な IP アドレスの使用 6
- ドロップダウンカレンダーフィールド書式 7, 25
- 認証 7
- ブラウザページの表示 15
- ブラウズモード 18
- ポート番号の指定 11
- 有効化 6, 9, 15
- レコードへのアクセス 18
- インスタント Web の有効化 9
- インスタント Web を使用可能にする方法 6, 15

う

- [ウインドウを選択] スクリプトステップ 29
- [ウインドウを閉じる] スクリプトステップ 29

え

- [エラー処理] スクリプトステップ 8, 29

お

- オブジェクトフィールド、制限 25

か

- カスタム Web 公開、FileMaker Server Advanced 5
- カスタム環境
 - 作成 26
 - ドキュメント 20
- カスタムホームページ 7, 13
- [関連レコードへ移動] スクリプトステップ 24
- 外部関数、Web 公開 32

き

- 旧バージョンのファイルの変換 8
- 切り取り (Windows) またはカット (Mac OS)
 - スクリプトステップ 28

け

- 検索モード
 - インスタント Web 公開 19
 - 機能 19
 - 対象レコードの拡大 19
 - 対象レコードの絞り込み 19
- ゲストアカウント
 - インスタント Web 公開の使用 10, 17
 - 無効化 17
 - 有効化 17
- 言語、インスタント Web 公開用に選択 10

こ

- 公開されているデータベースのテスト 31
- [コピー] スクリプトステップ 28

さ

- [再ログイン] スクリプトステップ 17

し

- [新規ウインドウ] スクリプトステップ 29

す

- スクリーンリーダー 7
- スクリプト
 - アカウントとアクセス権 27
 - インスタント Web 公開での使用 27
 - インスタント Web 公開での動作 29
 - テスト 31
 - 名前指定によるスクリプトステップも参照
 - ヒントと考慮事項 27
 - ログアウト 29
- [スクリプト一時停止/続行] スクリプトステップ 29
- [スクリプト実行] スクリプトステップ 29
- ステータスエリア
 - 言語の変更 10
 - 非表示 20, 26
- ステータスエリアの非表示
 - 概要 20, 26
 - 起動時 20
 - 切り替え 20
- [ステータスエリアの表示切り替え] スクリプトステップ 26

せ

- 静的な IP アドレス 13
- 静的な公開 14
- セキュリティ
 - FileMaker Server Advanced 7
 - SSL 暗号化 7
 - Web アクセスの制限 12
 - アカウントとアクセス権 8
 - ガイドライン 5
 - 考慮事項 32
 - スクリプトステップの確認 33
 - 静的な Web ページ 14
 - データアクセス 32
 - ドキュメントとデータの保存 33
 - 複数のアカウント 32

セッション、ログアウト 20

設定の変更 10

接続解除

 アイドルアカウント 12

 タイムアウトの設定 12

[全レコード/検索条件コピー] スクリプトステップ 28

そ

送信ボタン 18

ソート順、指定 27

[ソート] スクリプトステップ 29

た

タイムアウト設定 12, 20

他社のプラグイン 25

 FileMaker Server Advanced で 25

タブコントロール 7

タブ順 7, 24

タブパネル 24, 25

て

データベース

 アクセスの制限 12

 インスタント Web の有効化 9

 インスタント Web を使用可能にする方法 6, 15

 公開前のテスト 31

 静的 Web 公開 14

 リンク 13

データベースの公開

 インスタント Web 公開 9

 インターネットまたはイントラネットへの接続 6

 旧バージョンの FileMaker Pro から 8

データベースのホスト

 FileMaker Pro 7

 FileMaker Server Advanced 7

データベースへのアクセスの制限 12

データベースホームページ

 ファイルの非表示 10

 リンク 13

と

ドキュメント

 インスタント Web 公開ヘルプ 18

 カスタム環境 20

ドロップダウンカレンダーフィールド書式 7, 25

に

認証、フォームベース 7, 17

は

パスワード

 複数のアカウント 32

 変更 17

 ログインパスワードなし 17

[パスワード変更] スクリプトステップ 17

ひ

必要条件

 Web 公開 6

 Web ブラウザ 15

表形式

 FileMaker との違い 24

 制限 8

 設定 24

 デザイン 24

[表示方法の切り替え] スクリプトステップ 26

ふ

ファイル名、データベースホームページに表示しない 24

[フィールドへ移動] スクリプトステップ 25, 29

ブラウザ、Web

 データベースの表示 15

 データベースを公開する場合の条件 6

 必要条件 15

 開いているデータベースの URL 13

ブラウズモード

 インスタント Web 公開 18

 機能 18

[ブラウズモードに切り替え] スクリプトステップ 26

へ

ヘルプ、インスタント Web 公開 18

ページ、Web、データベースを参照する 15

ほ

ホームページ

 データベースホームページを参照

ボタン 24

ポート番号

 IP アドレスに追加 16

 Mac OS X 11

 Web 公開用の指定 11

 設定 16

 変更 11

ポップアップヘルプ、FileMaker Pro Advanced 7, 22

も

文字セットの制限、アカウント名およびパスワード 7, 17, 25

ゆ

[ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップ 28, 29

ユーザ補助 7, 24

り

リスト形式

 FileMaker との違い 24

 デザイン 24

れ

レイアウト、アカウントとアクセス権による制限 23

[レイアウト切り替え] スクリプトステップ 26

レイアウトの表示形式

 アクセスの制限 8

 切り替え 8

[レコード/検索条件コピー] スクリプトステップ 28

[レコード/検索条件確定] スクリプトステップ 25, 28, 29

[レコード削除] スクリプトステップ 28

ろ

ログアウト

 重要性 20

 スクリプト 29

 ボタン 20

ログインページ 7, 17

ログファイル

 Web アクティビティの監視 31

 アーカイブ 32

 作成 31

 保護 32

 ログオプション 32